

南無妙法蓮華經

越南は必ず勝利する

一九六七年六月十七日

トナム民族国家の開闢は西暦紀元前二〇八年にさかのぼります。仏教が早くからこの国に広まつて今日に至るまで、民衆の過半は熱心なる仏教の信仰生活を営んでおります。印度に発祥したる仏教は大雪山を越えて中国・朝鮮・日本に伝来いたしました。これを北伝佛教と呼びます。ハルマ・ランカ等に伝わった仏教をこれに対して南伝佛教と呼んでおります。通常、北伝佛教を大乗佛教と称し、南伝佛教を小乘佛教と称しております。小乗佛教は信仰的生活を重んずるが故に、五戒・八戒・二百五十戒を嚴重に受持することを勧めます。大乗佛教は觀念という精神的操作に重きを置く故に、外形的な戒律生活を軽んずる傾向があります。結句、日本国において末法無戒の僧風を作り上げて、今日の如き仏法衰微の現象を招きました。

教育を受けたものは僅に百人に一人に過ぎません。ラオスでは全国士を通じてお医者といらものが一
人といふ状態に放置されました。

フランスは重い税金を民衆にかけました。間接税として、アヘン・アルコール・タバコ・塩の專売権
を掌握し、これらに対する課税をもって、印度支那植民地経費の五・六十九セントをまかないました。
た。日本の政府もこれに似たようなことをして民衆を搾取しております。

今日でさやめ、ノトナムからの通信では、一般民衆は我等が到底想像も及ばぬ程の、慘めな生活を耐
え忍んでおるとこりうございます。いや、フランスの植民地時代には飢餓に倒れて、骸骨が道に
横ち、屍が山を築くこりう状態になりました。

彼らは「現代の戦争によつて殺され行くるものより、餓死したもののがはるかに多かった」と申してお
ります。これに耐えかねたる農民たちは、全国各地を通じて幾度か蜂起をくわだてました。けれども、
それはみな嚴重なる弾圧によつて約砕されてしましました。フランスは自ら第一次世界大戦を引き起しました。フランスはその戦火の中に巻き込まれました。

ヨーロッパはついでフランスは、ノトナムの人十万人を徵集して、本土・陝州戦線に送り、兵員・労働者として服役

せしました。戦争が終るや、フランスは当初の紛制緩和の約束を破り、一向にノトナムの状況は改善されませんでした。

されません。統治者の高慢はますます暮り、彼等が不正は日夜に横行し、いやしへもこれに反対する

のは容赦なき弾圧を以つてのぞみました。フランスは一九三〇年と三一年とに、全国に亘つて総ての民主主義政党を弾圧し、ヘトナム人の共産主義者・民族主義者・自由主義者たち多數を投獄し、その中の幾千人は無根・無実の罪によつて処刑されました。この弾圧に協力したものの中に、後日アメリカ政府によつて南へトナム大統領に仕立てられた、ゴ・ジン・ジエムと称するヘトナム貴族がありました。その後十年たつて、一九四〇年に日本は第二次世界大戦の枢軸国軍としてヘトナムに進駐し、新秩序建設と称して印度支那植民地を統治し、一九四五、敗戦際にヘトナム貴族ハオダイを擁立して皇帝となり、ヘトナムを統治せしめました。

一九五四年八月四日、アメリカ大統領としてこの戦争を支援するために、四億ドルの支出を決した時
いう長い題号の論説を掲げております。
らである

なぜアメリカは印度支那で戦争の危険を犯すのか。それは、印度支那が全アジアを制覇する鍵だから
一九五四年四月四日、U・S・ニースと言葉雑誌には、又
豊富に持っております、かつ、あの地域は非常に戦略的価値がある。彼処には海軍と空軍との基地がある。」
一九五四年三月二十九日、ダレス長官はかくの如く申しました。ベトナムは錫・石油・鉄・銅などの原継
は、自ラフランスにかわって、ベトナム支配の第一歩を踏み出したに過ぎません。
り込みました。アメリカの「フランスを助ける」軍事援助は偽善的口実に過ぎません。アメリカの本心
そこで始めてアメリカは、「自由主義国ベトナム」を赤化から守るために、軍事顧問団と武器を送
共産主義の防波堤としようといきました。これで「ベトナム南北に一つの国ができる」となります。
を赤の侵略から守る戦争、即ち「共産主義反対の十字軍」と定義、自ら自由世界の番兵となり、ベトナムを
民地占領のための戦争をするかかり、ハオダイの統治する「自由主義国ベトナム」をかいりいじ、それ
これを利用して自己の目的に奉仕せんといきました。従属人民の支配体勢を再建するために直接植
前述の通り一九五〇年にフランスはベトナムに名目的な独立を与え、ハオダイを大統領の位置に据え、
アメリカは、はじめからフランスの印度支那植民地再建戦争に奉仕する気はなかつたのであります。

アメリカの侵略戦争

こんで、今日のベトナム戦争に発展してしまいました。
ダム人民を納得させることは不可能だと気付き、一九五〇年にベトナム共和国の独立を与え、麻帝ハオ
しましたが、結局デイ・ビン・フーの敗戦を喫しました。フランスは植民地支配下では到底、ベト
遂にハノイを占領いたしました。ベトナム人は、ゲリラ戦方式によつて全力で独立戦争を開始いたしました。フランスは、一九四七年から一九五四年に至るまで、ベトナムのゲリラ討伐隊を廿五万に増強
は本意ではありません。再びベトナムに植民地支配を再建せんとして軍を動かし、一九四七年の初めに、それ
フランスは、一九四六年三月六日、一応フランス連合の枠内でベトナムの独立を認めたもの、それ
命・財産を犠牲にする決意である。」

全ベトナム人民は、自らの独立と自由を守るために、あらゆる肉体的・精神的な力を動員し、生
ベトナムは自由独立の国になる権利を持つており、遂に実際にもそうなった。

「我々はこの資金を国外にたぐれてやる計画を可決したのではない。我々は、アメリカにとつて必要な物を、印度支那の地域や東南アジアから手に入れる力を失なうことを予防せんが為に、一番上りの方針を可決しただけである。」と申しました。

フランスがアメリカの軍事援助によつてベトナムでグリラ戦争に勝てば、それは一番安上りの方法であります。しかし、廿五万のフランスの軍隊はベトミン(越盟)に勝てば、印度支那におけるフランスの植民地支配は終結してしまいました。

フランスが敗戦したことによつて、多少高価につく恐れはあるけれども、アメリカは自ら自由主義国の番兵と称して、トナムから引き上げません。その上、全アジアを制する鍵として、戦略的価値が高いベトナム各地に海軍・空軍の基地、ダナン基地・カムラン湾基地の構築等をやつております。

ジネーブ会議の頃は以上九ヶ国であります。

アメリカは現在、「ベトコム」と彼等が呼んでいた、南ベトナムの解放民族戦線を相手にして戦争しておりますが、和平交渉の相手としては、北ベトナム政府だけに限つて、南ベトナムにおける解放民族戦線の存在を無視せんとしております。

一九五四年、以上九ヶ国代表がジネーブに集つて、フランスの印度支那における植民地支配の終結に伴う政治上の諸問題を討議いたしました。

特にアメリカの代表団は、主張が全然對立する諸国の代表たちでありましたから、戦事は一向に進行いたしません。

六月八日、そこで北ベトナム政府は、会議の行き詰りを打開せんために大巾な譲歩を示し、ベトナムを暫定的に南北二つに分けることに同意すると申入れました。然しこの譲歩には、三つの条件を付けて明らかにしました。

一つには、ベトナムを十七度線で南北に分離するのは暫定的なものであり、いかなる意味においてもけました。

二つには、ベトナム国家の統一を保証するために一年以内に総選挙を実施する。

三つには、南北双方とも、この期間内には国際的な同盟關係を結んだり、外部から軍事援助を受けたりしない。

この提案はアメリカと南ベトナムのバオダイ政権を除く、他の代表団から受け入れられました。

ジネーブ会議でどんないどを協定しようと、アメリカのベトナム政策は決つております。その会議がいわゆるジネーブ協定の内容であります。

自由選挙の実施」を拒否しました。その理由は、若し「の自由選挙を行なえば、ホーチ・ミンが圧倒的で引き受けられたものであります。

不自然に北に南に分離されているを歴史せんとする企て、すなま、アメリカの武力侵略にてベトナム戦争はアメリカが一九五四年のゴネーブ協定に違反し、ベトナム住民の意志を無視して、介しております。

世界の報道機関は写真と記事によつて、ベトナム戦争という残酷無道な戦争の実態を広く世間に紹介しました。

は今年アメリカ人たちが我々に与えておる苦しみにくらへなれば、またく問題にならない」といへトナム老兵はアメリカの指導者に「我々はかつてフランス人のもとで苦しめました。それでもそれ同様十一月に南ベトナム陸軍内部で將軍たちのクーデターが起りました。

民の意志は革命という手段を取らざるを得ない」と警告しました。

一九六〇年四月、南ベトナム指導者十八人が、ジエムに対して、「もう少し自由を与えなければ、人

も、ゴ・ジン・ジエムによって殺されたトナム人の数が更に多いと言われます。

に不同意のものが全部を殺害しました。ベトナム戦争の軍事行動を通じて殺されたベトナム人の数より

ります。類をもつて集まつた強盗に過ぎません。ジエム政権は事實上の人間狩を始めました。独裁政治言う人もあります。然し、ゴ・ジン・ジエムとアメリカとは、ベトナム人民に対しては同じ型の暴君であ

ゴ・ジン・ジエムをベトナム共和国の大統領に立てたことは、アメリカの指導者の誤算であつたと

追いで出してベトナム共和国の大統領となり、首相・国防相を兼ねました。

その後、道化芝居に似た国民投票を行ない、アメリカの支援を受けたゴ・ジン・ジエムは、オダイを

を首相に任命する「よう」に、ハオダイに命令させました。

この会議の最中に、アメリカのダレはフランス側の代表に対して、「ベトナム人ゴ・ジン・ジエム

受する唯一の政権と認めると発表しました。

フランス政府もジエムープ会議が終るや否や、今後ともハオダイ政権のみがベトナムの主権を享

結果、共産主義が東南アジア全土に広まる恐れがあるから、これを防止せねばならぬ」と述べました。

の地位を前進させたことであり、この会議の注意すべきことは、北ベトナムが自由世界から失なわれた

ジエムープ会議終了後、僅か一日にしてダレス米国務長官は、「この会議の収獲は南ベトナムの独立

約もまただちに自ら破り捨てました。

受諾せないけれども、この協定を武力脅迫で妨害はせぬいといつてだけを誓いました。然し、この誓

議や協定は何らの価値あるものとも思つておません。それでこの協定は受諾せなかつたのであります。

第三回は、一九六四年十二月、ホー・チ・ミンはアメリカと討議する用意があるねをフランスに通

第二回は、一九六四年七月、ウ・タント国連事務総長の提案をアメリカは又拒否しました。

第一回は、一九六三年の秋、ラスはフランスの申入れを拒否しました。

争終結のために「交渉しよう」という働きかけを七回拒否しております。

こう言えば、北ベトナムが戦争を好んでおるようあります。しかし、実際のところアメリカは、戦

爪のあから程も興味を示さなかつた。』と言明しました。

一九六五年七月十三日ヨンソン大統領は、「素直に言おう。アメリカはこれまでベトナム問題をめぐる交渉・乃至無条件討議を開いて十二回も働きかけをしたのに、相手側、北ベトナムは、これに

でいる」と指摘しました。ベトナム戦争に対する日本の政府・実業家の仕事がここに現われております。

『日本援助は金儲けの色合が強く、本当の意味の援助は少ない。』といふ不満を南ベトナム人が持つ

今月の十四日に開かれたアジア太平洋地域大使会議第一日の討議で、南ベトナム駐在の中山大使は、

獲得説の震源地はどこか解らない。』

ベトナム戦争のお陰で余計に物が売れていたという説が広まっています。七十億ドルといふ外貨

日本国はベトナム特需と呼ばれる景気があります。昨年七月四日、毎日新聞に、「年間十億ドルは、

産業であり、その報道機関である。』ラッセル卿はこう書っています。

創どもたらす元凶とみられていてるもので、このアメリカの大なる軍事機構であり、巨なる軍需

アジア・アフリカ・ラテンアメリカ大陸の人民にとって彼等の生活の主要な敵であり、その不幸と

衆国総生産の五〇%以上が軍事費に揮げられることににつながった。

中にあるからこそ、巨大産業は自分自身の利益のために軍備競争を繼續するにとがめる。かくて、合

いられる人々を人民の意志によつて辭めさせることが出来なくなつたからである。いふうな權力の集

じのようにしてアメリカのデモクラシーはその生命を失つた。なぜならば、アメリカを支配している

配層も、すへて、この全能グループの前に奉仕するじとを余儀なくされていて。

軍司令官をふくむ一八七名の将校や、その給料支払簿にのせております。權力を握つておる大統領・支

令官を含む一四〇名の将校がいる。例えゼネラル・ダイナミック社は二七名の將軍と提督及び元

にも亦何エーカーの土地を所持している。そうちして大会社の執行部門には、二六一名の將軍と元軍指

合衆国、国防省は世界最大の軍事組織であり、国内に三二〇〇エーカーの土地を所持し、諸外国

英國のハーフランド・ラッセル卿が詳しくのじとを書いております。

し、戦争によつて莫大な利益を得る組織しかありません。

アメリカ合衆国、国防省といつものは戦争と言ふ手段によつて自己を肥す組織であり、戦争を指合

的な勝利を得るだらう、といつてありました。

告いたしました。アメリカは難農をもつて拒否しました。
第四回は、一九六五年一月二十四日、ソ連はジネーブ会議の再招集を要求しましたが、アメリカ
第五回は、一九六五年一月二十四日、ソ連はジネーブ会議の再招集を推進しました。
第六回は、一九六五年二月二十四日、ウ・タントが、又、予備的な話合いを提案しました。
第七回は、これと同時に非公式な七ヶ国会議開催を提案しました。
これらは何れもみなじとじとくアメリカが拒否しました。
アメリカの無条件討議というものは、いづれも、「ベトナムに無条件降伏を強いるものである」と
ノイも、南ベトナム解放民族戦線も、拒否しております。
日本の政府はアメリカの和平交渉を高く評価し、アメリカの走狗となり諸外国に特使を派遣して、アメ
リカの和平交渉の熱心さを宣伝いたしました。いづれの国も、冷笑をもつてこれに応えております。
す。
「紛争を拡大せんと熱望しておるものがある。彼等は、アジアの青年がやるべき仕事に、アメリカの
青年を提供せよ」と我々に呼びかけています。しかしかくの如き行動は、ベトナムの真の問題解決に対

アメリカはヘトナム戦争に勝利を得るにとどめません。アーヴィングによれば、四十万人のアメリカの青年たちを犠牲にしてやるために、何の役にも立たない」と言いながら、一九六六年の中頃には、アジアの青年がやるべき仕事を肩替りしてやるために、四十万人のアメリカの青年たちを犠牲にしておりました。アメリカはこの戦争で連続して敗北し、解放民族戦線がこれまで戦勝の数々を挙げておられます。然るに、一九六四年十二月二十三日、ペントゴンは、「若しくは、断乎たる処置が早急に取られなかつたならば、アメリカは史上最大の敗北を喫することはほぼ確実である。」と予測しました。

同时に讀めて言はく、善哉善哉、善男子、是れ眞の精進なり。是れを眞の法をもつて如來を供養すとか。乃至、諸の香油を身に塗り、日月海明徳仏の前に於て、天の宝衣を以て自ら身に纏ひ、諸の香油を灑ぎ、神通力の願を以て自ら身を燃して、光明遍く八十億恒河沙の世界を照す。其の中の諸仏、一切衆生意見苦難、復自ら念言すらく、我神力を以て仏を供養すと雖も、身を以て供養せんには如何妙法蓮華經薬王菩薩本事品第一十三に曰く

— 25 —

であり、誰が正義の騎士であるかを問題として眺めておられます。

はいづれがエ市を占領したか、といふことを誰も問題にしておません。むしろいづれが和平の戦士で突撃して来た軍隊の前で、熱心に立ったり坐ったり、礼拝誦唱いたしました。この場合、世界の人々エの街に戦車が轟々と進入して来る大道の真中に、お仏壇を持ち出して据えました。鉄剣をかざしてトナム戦争において特異な光彩を放つものは、仏教徒の焼身・断食・仏壇の市街戦であります。

三 宝毀辱の戦争と焼身供養

に三十万の南ベトナム人民解放軍に敗北しております。

現在四十六万三千の米国軍隊が駐留しております、南ベトナム軍が六十万武装しておりますに係わらず、僅かそこで、マクマラ国防長官は、どうすべきを現地視察に出来ました。

は、六十万の米国の軍隊が必要である」と語りました。

去る十六日の日本の新聞に、南ベトナム首相ダエン・カオ・キは「ベトナム戦争に勝たんがためにダブループがますます肥りました。しかし依然として勝利を得ております。

北ベトナム爆撃、戦争の連続で、アメリカ軍の動員数が増すにつれて、戦争利益を吸収して巨大な利権次は、柘葉作戦。ナパーム弾・毒薬・農薬でジャングルを枯らしました。

れました。何千の寺院・教会が破壊され、何万の信者が殺害されました。

問題によつて傷つけ、片輪にし、四十万人を一千の監獄に投げ込み、五百万人の人民を戰略村に押込みました。老幼尼僧を含む数万の婦人が暴行を受け、五千人の人が或いは腹をきかれ、或いは生き埋めになりました。

攻撃目標に選び、残酷にして恥知らずな犯罪を行いました。十七万人の民間人を殺し、八十万人を拷

ゴン・シヨロソ地域の周辺を平定しようとして、平和な村落・寺院・学校・病院・市場の中に、無差別一九六四年には、マクマラ計画と称して、都市周辺地域優先の平定作戦を行いました。まずサイ

ンデルタの平定作戦も一向に勝利をもたらしておられません。

その次に、水陸両用車が登場して、メコンデルタの水田を自由に駆け回るはすでありますから、メコンデルタの平定作戦も一向に勝利をもたらしておられません。

ツタボーンと考えられました。しかし計画の十八ヶ月は幻滅を作り出しあはかりで、なんにもできませんでした。

私は将来の世界和平の建設は仏法の興隆にかかると信じます。

力になつてゐるかわかりません。

今、ハトナムで焼身供養しておられます幾多の人々が、ハトナム和平建設のためにどれだけ大きな人が命を捨てる処は、仏土、お淨土に変らねばならぬ。

ふと云ふへきか。神力品に云く、

「若しは林の中に於ても、若しは園の中に於ても、若しは山谷曠野にても、是の中に乃至涅槃し給相模の國の中には片瀬、片瀬の中には竜の口に、日蓮が命を留め置く事は、法華經の御故なれば寂光土然らば日蓮が難に值ふ処、ことに仏土なるへきか。娑婆世界の中には日本國、日本國の中には相模の國、

經の事なり。十方仏土の中に法華經より外は全くなきなり。『仏の方便の説を除く』と見えたり。若し捨てたる処なれ、仏土に劣るへしや。其の故は既に法華經の故なるが故なり。經に云く、

「今度法華經の行者として漏罪・死罪に及ぶ。漏罪は伊東、死罪は竜の口、相州竜の口、そ日蓮が命山に登つて幾人死んで見ても、そこがお淨土に変らぬいと言ひうのであります。

されば捨てて海河も仏土にあらざるか。」

「然れども法華經の故、題目の難にあらざれば捨てし身も、蒙る難等も成仏の為ならず。成仏の為なて、或は磯のほとり、心中するのであります。

今日でも日本の青年は、なかなか熱心に命を海に山に捨てております。鎌倉の附近では或は河に捨捨て、或は河、或は磯等、路のほとりか。」と申しておられます。

「日蓮過去に妻子・所領・眷屬等の故に身命を捨てし處いくそばくあります。或は山に捨て、海にこれは日蓮大聖人様の御妙判にあります、竜の口と言ひうところで首の座に坐られました後で、僧を恭敬し、供養せんがために、我が身命を捨つべきことを教えておられます。

佛教は不殺生戒を第一義としてはおりませけれども、自己の身命の愛着を離れて正法を実践し、佛法衆生済度の祈願ともなります。

唯、我が命を以つて仏陀聖尊を供養し奉る一つの修行であります。正法を體む志であります。精進の心なくしては身を捨つることはできません。じの勇猛精進力が社会に發言して天下泰平の祈りとなり明らかに世界に伝えておられます。

菩薩の焼身供養。いには何等の怒りもなければ、憎しみも恨みもありません。そのことを遺言状がち其の身忌きぬ。」已上經文

名く。乃至、是の語を作りて各默然じたまふ。其の身の火燃ゆること一千一百才、それを過ぎて乃

トナム人の戦争には戦争目的を告ぐる必要はありません。人間全體が既に立ち上つております。
古来、戦争といふ戦争の中において、アメリカのトナム戦争程不名誉な非難を受けた戦争は他にあります。
しかし、道徳的敗北は人類歴史上最も暗黒なアメリカの汚点となります。
が、なおこれは世間にも往々在りふれた耻辱であります。
アメリカの軍隊は腐敗と非人間的残酷性によつて敗北します。軍事的敗北はアメリカの耻辱であります。
「うそ」の戦争目的をもつものは勝つはずがありません。
れいづれも嘘だということが証拠を挙げて説明されております。
だ」といつて兵隊を送り、又、北からの共産主義の侵略を防ぐのだといって、戦争を拡大しました。
アメリカには戦争目的がなくて、はじめ誰も出兵を約束してはいらないのに、やがて「約束を果すのが、トナム戦争に勝利する」とはできません。
しかしながらアメリカは、トナム戦争に内在する正義と軍事技術を理解することはできません。した
アメリカはトナム戦争に日本国軍事基地・本土・油槽を使用することはできます。
アメリカはトナム人民を全滅せしむることさえもできなことではあります。
アメリカは枯葉作戦を行なつて森林を焼き払い、ジャングル・農作物を枯らすことはできます。

トナム人民を殺すことはできます。
アメリカは無防備、防衛設備のない村落を焼き払い、ナパーム弾・黃磷弾・毒ガスを使用してトナム
アメリカは、捕虜の拷問・射殺・生き埋め等をすることはできます。
アメリカはジエネーブ協定に違反し、数かずの国際戦争法規をじゅうりんするることはできます。
者として、虐殺することもできます。
アメリカは八百万のトナム農民を有刺鉄線と武装巡視のもとに、強制収容所に入れて拷問し、不具
アーリカはトナム戦争のために、一時間当たり百ドルを費すことができる。
アメリカはトナム戦争において、トコソ一人を殺すのに、四十万ドルを費すことはできます。
あるトナム兵であります。彼等はやがてアメリカ軍の内部から崩壊させる機会を待つておられます。
し、アメリカにとっても恐るべきものは脱走の多いことではあります。政府軍内にどまつて
南トナム政府軍は青年を強制徵集してみても、その三分の一、即ち過半數は脱走してしまいます。然
此の戦争を止めよ」と申しこました。
た。新旧キリスト教・ユダヤ教の聖職者、一千五百人が、ジョーンズ宛の公開状に、「神の名において
た。微兵令狀を公衆の面前で焼却いたしました。五十万人のトナム戦争反対の大行進が行なわれました。
トナム戦争におけるアメリカの敗北の兆候として、アメリカでは最近五百人の集團脱走兵が出ました

法華經には、その光明が八千億恒河沙の世界を照すと説かれた。

人間の文明史上に永久に輝々と輝く光明を放ちました。

仏教に説く菩薩行とは、将に八十人の行基であります。

いき、なんの怨みも残がない様であります。

精神力をふるいおじして、我が國土を守り、自由を守り、平和を守り、從容として枕をならべて死んでしかしながら更に驚へべきは、八十人のうちが人間としては到底信じられない程、堅忍剛毅の

八十人のアメリカを打ち破る軍事的勝利は人類歴史上的一大奇跡であります。

しかししながら、解放軍の兵力は人員でも部隊数でも日夜に増加しつつあります。

八十人はアメリカの新鋭兵器のために渾身負傷し戦死しております。

ます。

八十兵は野原や森林で、或はこの家から家の家へ、この村からこの村へと点々として戦っており八十兵は深山の奥に穴を掘つて暮しております。

八十人は貧しくて飢えております。

八十人はホロホロの形ばかりの着物を着ております。

八十人は微兵する必要がありません。